

1 CASBEEとの連携について

- 建築物環境計画書の評価基準のうち、CASBEEの基準に類似したものについて、基準値やルールの調整を行うことにより、取組・評価書作成者の作業量低減や作成方法の習熟時間に配慮する。

この結果、約6割の評価基準（段階）でCASBEEと連携できる見込み（調整中を含む）。

- CASBEE評価シートの活用
CASBEE評価シート（エクセルファイル）の入力内容を建築物環境計画書の取組・評価書に転記しやすくするためのファイルを整備・提供する予定
- 比較

	現行制度の評価基準（段階）の項目数	見直し後の評価基準の項目数	左記のうちCASBEEと連携を図る評価基準の項目数（調整中）
住宅	21	22	14
非住宅	26	25	14

（再エネ電力等の新規評価基準増のほか、統合する評価基準による減がある）
（評価基準の数値の連携のほか、評価ルールの連携を含む）

2 入力項目低減の取組について

- 記載事項（段階として評価はしないものの、当該建築計画における環境配慮を把握するための事項）を中心に、入力項目数の合理化を検討する。
- あわせて自由記載を数値入力や選択式に変更することで、簡便に入力でき、かつ広く建築物間で比較しやすい入力方法を検討する。

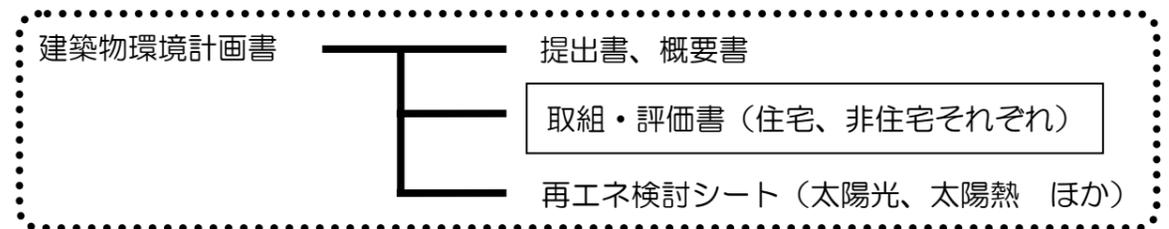
この結果、入力項目数は約5割～6割になる見込み（調整中を含む）。

	現行制度の入力項目数 （ ）内は自由記載形式の数	再構築後の入力項目数の見込み（調整中）
住宅	238 (うち41)	約 150
非住宅	403 (うち74)	約 200

入力項目数には評価段階（段階1～3）の入力を含む（22 又は 25 項目分）。

3 複合用途建築物（住宅+非住宅）における取組・評価書の作成省略について

- 延べ面積 2000 m²未満の場合、建築物環境計画書の提出は任意
- 複合用途建築物（住宅+非住宅）の場合、取組・評価書は2つ作成することが必要



- 入力作業の合理化等を鑑み、複合用途建築物（住宅+非住宅）の計画において建築物環境計画書を提出する場合は、主用途以外の2000 m²未満の用途（住宅又は非住宅）については、引き続き取組・評価書の作成を省略できるようにしたらどうか。（現行）

主用途	延べ面積	住宅用途の面積	非住宅の面積	取組・評価書	
				住宅	非住宅
住宅	2000 m ² 以上 1万m ² 以下※	問わず	問わず	必要	省略可
	1万m ² <	2000 m ² ≤	各細用途が <2000 m ²	必要	省略可
非住宅	2000 m ² ≤	<2000 m ²	問わず	省略可	必要
	1万m ² <	2000 m ² ≤	各細用途が <2000 m ²	必要	省略可

※省エネ性能評価書の提示義務を運用するため、延べ面積に上限がある。

（改正案）

主用途	住宅用途の面積	非住宅の面積の合計 ※	取組・評価書	
			住宅	非住宅
住宅	問わず	<2000 m ²	必要	省略可
	問わず	2000 m ² ≤	必要	必要
非住宅	<2000 m ²	問わず	省略可	必要
	2000 m ² ≤	問わず	必要	必要

※見直し後は延べ面積に応じた区分はしない。